

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスZEAL		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 15日		R7年 2月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	R7年 1月 15日		R7年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動療育の力を入れている。 ボクシング、ボクシングジムでの運動、外部講師によるキッズヨガ等、静・動のメリハリがつけられる活動を取り入れている。	・一人一人にあった支援を考えている。 ・ご利用者様や保護者様の要望等に沿って個別支援計画を立てている。	・職員間の声掛けや情報共有、連絡を特に意識して行っている。
2	ボクシング療育を取り入れていること。	ボクシングジムに行く事により、挨拶等習慣化されている。	ボクシング以外の活動でも、挨拶を習慣づけさせる指導をする。
3	個別療育(個別課題)をほぼ毎日実施していること。	児童一人一人の発達段階を見て、ひとりひとりに合わせた療育を計画し、支援している。	子どもたちが楽しく取り組める療育を取り入れていく。
4	毎週異なる内容の療育をしていること。	児童の行動を記録に残し、課題や強みを分析しながら活動を計画している。	児童の実態を職員同士で共有する。

	事業所の弱み(※) だと思われること※事業所の	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	研修などで一人一人が学んでいく時間が足りていない。	職員間で意見交流する時間を増やす。	子ども一人一人の特性は違うので、職員ももっと理解を深めて、適切な対応が出来るようにしたい。
	児童同士の関りが少ない子がいる。	小集団の活動に参加できないスケジュールの児童がいる。(午前の時間等)	SSTは平日でも場所を選ばずできるため、小集団で行うSSTを積極的に取り入れていく。
2	児童の発達段階に関する認識や知識の格差	共有できる研修制度が不在	経験者による研修制度の確立